

# 平成28年度 学校評価実施報告書

## 2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・各教科での言語活動のさらなる充実 ・わかる授業の創造(教材研究の充実)と年8回の授業研究・研究報告会の実施	・児童の話す・聞く態度の変容 ・研究会テスト、プレジョイ、ジョイント、学プロの結果 ・「自分から進んで発表したり、活動したりしながら学習していますか」
	自ら学ぶ力の育成	・子どもたちが主体的に学べるような問題解決的な学習や探究活動の充実 ・学校での学びを生かせることを実感する子どもの育成	・子どもたちの学習態度の変容 ・自分で学習の仕方を工夫しながら学習に取り組んでいますか？
	家庭学習の習慣化	・学校だより・学級だよりによる啓発活動 ・家庭学習の具体的な指導と評価 ・自主学習の実施、点検	・「家庭学習を忘れずしっかりとしていますか」 ・自主学習ノートの点検、評価
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・保護者・地域とのクリーンキャンペーンの実施	・「丁寧な言葉づかいができていますか」 ・「学校や学級のきまりや約束を守って生活していますか」
	支え合い高め合う集団づくりの推進	・異年齢集団による縦割り活動の取組 ・自己肯定感、自己有用感等の自尊感情を高める取組	・児童生徒の変容 ・振り返りアンケートの記述内容 ・いじめアンケートの記述内容と見取り
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的生活習慣の確立に向け、早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ ・健康観察カードの実施、働きかけ	・「早寝・早起きなど、規則正しい生活をしていますか」 ・健康観察カードの点検
	体力の向上	・遊びやスポーツを通した運動の習慣化 ・4年生からの運動部活動の実施 ・レインボータイム、休み時間の遊び、運動の奨励	・「しっかりと運動をして、体力をつけていますか」 ・新体力テストの結果
独自の項目	小中一貫教育の充実と発展	・期の取組 ・学習の柱部会の取組 ・花背くわくバンドの取組 ・スキー学習、俳句、そろばん学習	・期の会や学習の柱部会の実施回数 ・演奏発表回数 ・各種展覧会への応募



自己評価	
評価日	平成29年3月9日
評価者・組織	教職員・職員研修
分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
<p>・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理</p> <p>アンケート結果・各種指標結果</p> <p>授業中、聞くことができるようになってきており、聞いたことに対して自分の考えが述べられるようになってきている。 ・学プロ・ジョイントプログラムにおいて、全市平均を大きく上回る。 「できている」児童生徒の割合は96%、保護者の割合は80%</p> <p>・「できる」児童生徒の割合は88%、保護者の割合は68%</p> <p>・「できている」児童生徒の割合は92%、保護者の割合は64% ・宿題以外の自主学習を奨励し、点検するようにしている。</p> <p>・「できている」児童生徒の割合は80%、保護者の割合は72% ・「できている」児童生徒の割合は88%、保護者の割合は100%</p> <p>・児童生徒は自ら高める活動を考へており、変容が見られた。 ・アンケート結果からも満足感を得ていたようだ。</p> <p>・「できている」児童生徒の割合は81%、保護者の割合は72% ・健康観察カードにより児童生徒の健康状態が把握できている。</p> <p>・「できている」児童生徒の割合は81%、保護者の割合は72% ・新体力テストの結果は、ほぼ平均値である。</p> <p>・期の会や学習の柱部会には必要に応じて、月1回以上は行っている。 ・昨年度より増え、5回校外向けの発表を行った。 ・各種展覧会で表彰(入選佳作)を受け、俳句は京都新聞に掲載</p>	<p>授業改善をさらに進め、問題解決的な学習にしていこう。 ・話す聞く活動をさらに充実させ、自分のおもいや考えが述べられるようにしていこう。 ・書く活動をさらに充実させ、言語活動につなげるとともに、思考活動を活性化させていこう。</p> <p>・進んで発言する子どもが増えてきており、自ら学ぶ意欲は高まってきている。 ・考へる時間や書く時間を多くとることにより、自ら学ぶ力がついてきている。</p> <p>家庭学習について、保護者・教職員と児童生徒のつらえ方に違いがある。児童生徒は宿題とらえていると思われ、保護者・教職員は、家庭で自主的に学習する習慣をつけてほしいと考えている。</p> <p>・あいさつにおいて子どもはできていると感じているが、学校・保護者はあまりできていないと感じている。 ・ことは違ひは距離感が近いという良い面もあるが、社会性の獲得を考えると、線引きが必要である。 ・約束やきまりを守るでは、ベルが鳴ってから、急に帰る上級生が見られる。また、ベルが鳴ってから授業の準備をするなど、人権意識や思いやりや親切な行動においては、授業ではとるべき行動を理解することはできるが、生活の場面では自分はそのつもりはなくて、他人を傷つけてしまうこともある。</p> <p>・早寝・早起きは、おおむね出ている。 ・朝食もとれているようだが、食事の内容はどうか、バランスよく食べられていないと思われる。 ・給食で食べる量も少ない。ほとんどの児童がスクールバスで通学していることとあって、運動量が少ないように感じられる。</p> <p>・体力についての評価は、児童生徒・教職員・保護者ともに、同じようによく悪くもない。休み時間などの様子を見ると、やはり全体的に運動量が少ないのではないかな。また、「ボールを投げる」など、技能的にも高いように感じられない。</p> <p>花背くわくバンドの取組については、一定の成果をおさめている。児童生徒にとってできることが増えている。(スキーも同じ) ・花背の取組が充実できていることが、期どしのつながりが希薄になる一面もあり、学校全体のつながりも意識していこう。</p> <p>・食育についての学校だより・学級だより、保護者対象の講演会などで保護者に働きかけていく。 ・休み時間の外遊びの奨励、運動する環境・一人でも遊べる環境を作る。 ・児童生徒の人数が少ないからこそ、運動量を保障するような取組・活動を考える。(レインボータイムの活用)</p>



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月16日
評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
<p>・研究会テスト、プレジョイ、ジョイント、学プロの結果では、全市平均に比べていい成績を収めているようで大変うれしいことです。 ・9年生全ての生徒が自分の希望の進路に進めたことは素晴らしいことです。 ・確かな学力をつけ、9年生の終わりに自分の進路実現をさせてほしい。 ・夢や希望を実現するために、「今何をするかが大切なのか」を常に考えさせることによって、自ら学習していくことができると思うので、引き続き頑張ってもらいたい。 ・展覧会に入賞したり新聞にのったりすると、子どもたちの自信につながり学校のアピールにもなります。</p> <p>・9年生で進路実現ができるよう家庭でもしっかり学習できる子どもにしてほしい。 ・塾に通うことができない地域なので学校だけが頼りです。 ・できない子への手立てとして放課後学習することも必要です。</p> <p>・今まで同様、人権意識をしっかりつけていく必要があると思います。 ・子どもの様子を見ていくと、あいさつをつけたり必要に応じて、みるみるうちに変わってきていると思います。教職員の体制づくりのお陰だと思っています。 ・縦割り活動において、上級生には思いやりの心が育ち、下級生の面倒を見ることでできていると思います。下級生は、そのことを喜び、自分が上級生になった時にはできるように頑張っていると思います。</p> <p>・早寝早起き朝ごはんがしっかりできているのはうれしいことです。 ・みんなが運動に取り組めるよういろと工夫して下さっている。レインボータイムの有効な活用も、子どもたちとともに考えていこうと思います。 ・家庭に帰ってからは一緒に遊ぶ子どもがいないので、学校で十分に運動させてほしい。 ・学校で、スポーツをしたり遊んだりできる雰囲気を作っていると思います。 ・スポーツや遊びを通して学校がまとまっていくことはとても大切なことである。</p> <p>・小中一貫教育校として充実した取組をしていただいていることは大変素晴らしいことです。 ・わくわくバンド、スキー学習、花背学習、そろばんなど他校ではできないことがたくさんできている。子どもたちはふつうのことと思っていながら、とっても素晴らしいことである。</p>	<p>・学校と家庭・地域が一体となり家庭で学習する雰囲気をつくっていくことが必要だと思います。 ・なぜ家庭で学習する習慣をつけることが必要なのか、低学年のうちから子どもにも家庭にも発信して欲しい。</p> <p>・思いやりの心は、とても大切なことなので学校だけでなく、家庭・地域でもつけていく必要があります。学校でしていただくことをみんなで支援していきたい。 ・日々の子どもたちの言動に気を配り、小さなことも見逃さず指導を続けていっていただきたいと思います。 ・学校だけではなく、家庭でも地域でもあいさつができるようになってほしい。 ・縦割り活動によって子どもたちのいい面が育ってほしいと思われているので、続けていってほしい。</p>

## 3 総括・次年度の課題

・今年度は、11月に家庭教育家講座で、学校評価についての話し合いを行った。このことにより、子どもたちが自主的、主体的に行えるようになるために、学校と家庭それぞれが責任をもって取り組む内容を明確にすることができ、連携を密にしながら取組を進めていくことが明確になった。第2回評価では、保護者の意見が、第1回評価に比べよい評価となった。今後も学校・家庭・地域の三者が一体となって、様々な取組をすすめていきたい。

・成果と課題や改善策について、第1回は「期の会」を中心に、第2回は分野ごとに各期の代表者が検討し、その結果を全体で交流した。これにより、様々な課題について校種の違いを越えた「9年間の学びと育ち」という視点から考えようとする意識がより一層高まった。その結果を学校運営協議会で検討していただくことで、より深まりがみられ、成果や課題が一層明らかになった。

・学校運営協議会においても、よい評価をいただき、学校に期待していると励ましの言葉をいただいた。いろいろな取組をアピール(外部発信)することにより、花背小中学校に通わせたいという保護者ができてほしいという地域の熱い思いを感じることができた。